

令和2年度第2回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年2月18日(木) 16:00~17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

4 知事挨拶

教育委員の皆様方には平素から本県の教育行政の推進に多大なご尽力をいただいていることに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、本日は大変お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。昨年10月に教育委員に就任された和泉委員におかれましては、初めてのご出席となる。どうぞよろしくお願いいたします。

急速な技術革新の進展、そしてコロナの時代に対応した社会全体のデジタル技術の活用に向けた動きなど、変化が激しい時代において、本県の未来を切り拓いていく若者を育成すること、これは極めて重要であると考えている。今後の県の人づくりの指針として、本日お示しする「新たな時代の人づくり推進方針」の最終案を取りまとめたところである。

今後は、この推進方針に基づいて、人づくり全体を体系的かつ中長期的な観点に立って、関係部局が一体となり、本県の新たな時代を担う若者の育成に向けた取組を推進していくこととしている。

これを円滑に進めるため、新年度には、庁内を横断する組織となる「新たな時代の人づくり推進室」を新たに設置し、本県の未来を担う人材の育成に向けた様々な取組を本格的に始動していく。

さらに、一昨日に発表した来年度の当初予算(案)においては、前回の会議で決定した重点取組方針に基づき、「乳幼児の育ちと学び支援センター」の設置による幼児教育・保育の質の向上や、学習記録等の教育ビッグデータの活用、デジタル化に対応した産業教育装置の整備などを盛り込んでいるところであり、県教委と連携しながら、取組の充実・強化を図っていくこととしている。

その詳細につきましては、後ほど事務局から説明があるが、委員の皆様におかれましては、幅広い見地から忌憚のない御意見・御提案を賜りますようお願いしたい。

5 議事概要 (議事進行：知事) ※委員発言：● 事務局説明等：○

(1) 山口県新たな時代の人づくり推進方針(最終案)について

(2) 令和3年度重点取組方針主要関連事業(案)について

○事務局から別添資料に沿って一括して説明。

●宮部委員

県のデジタルの推進体制については、知事自らが最高責任者となられて、官民一体で推進体制を構築するというお考えで、たいへん素晴らしい。敬意を表したいと思う。私からは、まず、人づくりの基となる乳幼児期の教育・保育、これについて、推進方針に掲げられた目標があるが、幼稚園等も私立と公立の連携とか、幼稚園と小学校との連携とか、そういったことも含めて、先生方がいろいろなシステムをつくる中で、もっと深めていけば、素晴らしいものになるのではないかと思っている。

また、山口県の歴史を切り拓いた先人のことをしっかりと学んでいくということ、こうしたことも、現在セミナーパークにもそういった学習コーナーがあるし、教育委員会のホームページにもちゃんと伝えるものがあるが、それをもっと広く皆さんに知っていただけるような方法が工夫されれば、現在も結構素晴らしい取組が行われていると考えている。ということで、子どもたちに対してこういった事業を行われることは非常に素晴らしいことと思っている。

それと最後にありましたが、県立学校の長寿命化について、私は建設関係の業界の者ですが、元々コンクリートは100年もつということが言われていたが、現実にはやっぱりいろんな要因があり、50年とか60年とか、こんな感じで建て直しがされているが、今回、きちんと指針をつくられて、20年毎に改修しながら80年もたせるということで、非常に良いことと思っている。建物は、やはり20年で水まわりとか防水とかで問題になるので、そういった考え方に転換されるということは、非常に良いことではないかと思う。その中で今回もあったが、非構造材の補修というのがあった。これは私の思いだが、山口県には森林がたくさんあって、山が荒れて間伐ができない、出してもお金にならないということで、山で破碎されたり、外に出すとお金がかかるから切ってもそのまま放置する形で間伐を進めているが、間伐材を使いながら何かの外装材になれば、自然環境を含めて、CO2の問題も含めて、上手くいくのではないかという思いがある。

●村岡知事

幼児教育・保育の点については、今回、重点的に取り組むこととしている。おっしゃるとおり、山口県の先人について学ぶ学習についても、広く展開できればと思う。施設の長寿命化についても、しっかりと考えていかなければならないし、間伐材の有効利用も、知恵を絞っていかなければいけないと思うので、これにも期待していきたい。

●佐野委員

乳幼児期から切れ目のない施策が充実されているように感じている。また、

人が人を育てるっていうことを考えると、教える側の人材の育成についてもよく配慮がされていると感じている。

乳幼児の育ちと学び支援事業について、幼児教育や保育の質の向上を図る「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」といったものがしっかりと機能することを期待している。また、子どもたちに多大な学びの場を提供しておられることも注目している。広くグローバルな視点であったり、私達の足元であるまちづくりやふるさとの探究であったり、様々な切り口で学びの導入が多くの子どもたちの心に届き、自ら学習するきっかけになっていただければなと感じている。それで、全体的に、ICTの導入・活用がさらに具体的になってきたように感じている。新型コロナの影響の中、様々なことがこれまでのようにできない、そういった状況もあるが、今だからこそできるということも多くあるように感じている。是非、教える側も、学ぶ側もICTを使いこなしていただきたいと感じている。これまでのやり方から変化しないといけないということで、関係者の方々は大変だと思うが、指導する先生方も新しい時代に合った指導力を磨き、子どもたちを導いていただき、様々な可能性を引き出していただきたいと考えている。

コミュニティ・スクールについては、山口県の強みだが、現在のコロナ禍のもと、既存のやり方では実施しにくいということが予想されるが、これについても、こんな時期だからこそ、コミュニティ・スクールで培われる能力が重要になってくるのではないかなというふうに感じている。地域や人とのかわり合いや、多彩な学びを通じて、子どもも大人も成長していければ、本当に心豊かな社会につながるというふうに思っている。ICTなどの技術を活用することで、更なる地域連携の形など、できる方向性とかやり方を模索していただいて、山口県の強みを引き出していただきたいと感じている。

それから、県立学校の施設整備で、三部制の高校が県央部に新たに整備されるが、単に学ぶ時間帯が違うということではなく、どんなニーズがあるかを把握して、それに応えられる教育内容や学習環境を用意していただき、子どもたちの能力を伸ばしていただければと感じている。アプローチは違うが、めざす到達点とか志が深く、子どもたちが誇りをもって通うことができる、そういった学校になっていただければと思う。

最後に、新型コロナの影響で大きく生活が変化していることが、様々なところに影響を及ぼしていると感じているが、子どもたちの問題行動も、表面的には以前よりも分かりにくく一見すると問題があまり起きてないんじゃないかというふうに感じることもあるが、実際には、全国的に子どもの自殺が大幅に増えている現状とか、そういう統計を目にすると、山口県においても大丈夫かなと心配するところがある。したがって、心の教育や実態に合った対応、早期の対応がさらに必要ではないかなというふうに感じている。

また、不安感というと、山口県において、新型コロナに対する予防、疾病

対策が進んでおられ、地域でも非常にご苦労されてらっしゃると思うが、いまだ治療法が確立されてない感染症がこれだけ広がっている状況において、いつ誰が罹患してもおかしくないという状態になっている。もし、罹患した場合、対処が足りないということや、生活ができなくなるという不安感を感じている人が多く、こういったものが社会的な差別につながっているんじゃないかと感じている。特に小さい子どもや高齢者をもつ家庭においては、それから問題を個人で受け止めるっていうことは、かなり重たいものではないかと考えている。もし罹患した場合、安心して治療に専念できる環境、疾病対策を行いながらも、安心して社会生活が送れるようなセーフティネット、そういったものができればいいなというふうに感じている。

新型コロナへの対応やICTの導入など、本当に大きな社会変動の中、志を高め、問題を自ら発見し、行動に移し、学び成長し続ける山口県人として頑張りたいなと感じるような内容がしっかり入っていると思うので、これらが良い形で実施されることを期待している。

●村岡知事

ありがとうございます。様々な貴重なご意見をいただいたところですが、コロナの時代の中で、ICT教育も進めていくが、一方で、リアルな個別具体の取組も上手く、これまで積み上げてきたものを展開できればと思うし、また心の教育ですとかセーフティネットですとか、コロナ禍の中で新しく生まれている課題にもしっかり対応していかなければと思う。そのあたりも踏まえて、教育委員会としっかりと連携して対応していきたい。

●小崎委員

新たな時代に向けた人づくりの推進というところで、幼児教育・保育の充実とあるように、それに関連する事業がしっかり組み込まれているのでとてもいいなと思った。特に、先ほどから出ているが、「乳幼児の育ちと学び支援センター」が設置されるということは、特に素晴らしいと思う。一つの課題に関していろんな課が関わるということはとてもいいことだと思うが、いろんな課が関わることで、こちらの課でもこのことをやっている、こちらの中でもこのことをやっているということがあがると思うが、違う課が同じことをやっているけれども、それぞれが一緒にやることはないっていうのが割と見られがちだったので、それが一つまとまって一元化されて、子どもたちのために、乳幼児のためにというふうに取り組みされるっていうのはとてもいいことだと思う。

次に、時代のニーズに対応した教育環境づくりとあるように、やはり全体を通してICTとか、オンラインという言葉が随所に見られ、子どもたちの未来が本当に大きく広がっていくような感じがしている。そのICTを駆使

しながら、同時に、「地域教育力日本一推進事業」であるとか、「育ちや学びをつなぐコミュニティ・スクール推進事業」というのは、やはり対人というか、直接人と触れ合い、直接的に経験する事業であってほしいと思う。この先、コロナがどうなっていくのか、また状況がどう変わっていくのか、難しいところもあると思うが、やはり子どもたちの目の前にあるのがコンピュータではなく、人や地域の風景であったり、あと実際に見たり聞いたりしていないと分からないこともたくさんあると思うので、そこはしっかり育み、大切にすっていうことを、子どもたちが実感できるようなこういう取組をしていただきたいし、私もやはりコミュニティ・スクールに関わる者として、そこは考えていきたいと思っている。

ちょっと話はそれてしまうかもしれないが、知事の方でも多分学校の様子とかいろんな情報が入って聞かれていると思っているが、私が今年度見てきた学校の様子についてちょっとお話をさせていただけたらと思う。どの学校でも、先生方が子どもたちのためにという熱い思いをもたれて、いろんなことに取り組みされていて、コロナだからできないじゃなくって、コロナ禍だけど、何ができるかっていうのをすごく考えられている。学校の体育祭とか文化祭とか、そういった行事や参観日とかも今まで通りにはやはりいなくなっていて、いろいろ先生方が考えて形を変えて行われているが、その形を変えて行ったことが、かえって感動を呼んでいる。保護者の方や生徒たちが、コロナだけど頑張ろうっていうのがすごく伝わってきて、先生や生徒さんの姿に私たちの方がなんか勇気をいただいている、そういう状況である。地域の方も、いつもは子どもが居る時間帯に学校に入ってお花を生けたりして子どもの様子を見ていたが、やはりコロナになってしまうと、そう簡単には学校に入れない。だけど、やっぱり子どもたちのために何かしたいっていうことで、子どもが下校した後に地域の方が学校に入ってお花を飾られている。そういうちょっとしたことですが、そういう工夫を本当に皆さんされている。コミュニティ・スクールや地域協育ネットの取組も、今までみたいにはできなくてすごく歯がゆい思いもあったが、言い方は悪いが、コロナのおかげで、一旦ちょっと立ち止まって見直しをして、さらにステップアップする、そういう機会を今もらえているんじゃないかなというふうに思っている。やはり来年度に向けて、より一層学校と地域がコミュニケーションを取って、一つでも多く子どもたちのために、楽しい、ワクワクするなっていうような取組ができたらいいなと思っているので、引き続き、知事のお力をお貸しくくださるようお願いする。

●村岡知事

最初におっしゃった「乳幼児の育ちと学び支援センター」については、先ほど他の委員さんの方からもお話があったが、しっかりと良いものになるよ

うに、センターとしての機能を果たしていかなければいけないと思う。私の立場でも、しっかりとお願いをしていきたいし、学校の方でかなり苦労されて、コロナの中で、工夫して先生方が様々な知恵を絞って実行されていたり、あるいは地域の方々が、放課後に、なかなか子どもたちと直接は難しくても、そうでない形で取組をされているということで、たいへん心強く思う。ICT教育につきましては、ICTが得意な分野と、そうじゃない分野ということがあがるが、地域との繋がりとか、リアルの世界でここまで作ってきた部分というのがあって、コロナの中で止まっている部分もあるが、先ほどおっしゃったように、これによってステップアップするような形に是非なっていて欲しいと思っている。小崎委員さんも地域でいろいろ取り組まれていて、大変ありがたいと思っている。引き続き、教育委員会としっかりと連携して地域での教育がさらに進むよう取り組んでいきたい。

● 穎原委員

ICT化や教育のデジタル化が進む中で、これから学校ごとに様々な良い取り組みや課題だとか、明らかになってくると思う。その情報を集めて改善に繋げていけるような仕組みづくりをお願いしたいと思う。今後、山口県庁の方でも、情報職の採用について進めていくということがございましたら、ICT化や教育のデジタル化の推進のためにも情報職の活用、配置についてもご検討いただければというふうに思う。1人1台端末については、生徒の目の保護についてのブルーライト対策など、今後ご検討いただければというふうに思う。教員がICTを普段使いするためのサポートについては、ICT化や教育のデジタル化を進めるために重要な施策であるので、今後も重点的に取り組んでいただければと思う。デジタル化やICT教育が今後進んでいく中で、情報リテラシー教育も重要になってくるのではないかと考えている。国内外で、SNSを通じたフェイクニュースとか、様々な問題も起こっている。情報が氾濫する中で何が正しい情報なのかを判断する力や、情報を活用する力を養うということも、重要になってくるのではないかと考えている。情報リテラシー教育についても、今後ご検討いただければというふうに思う。今後も事業が円滑に進んでいくことを期待している。

● 村岡知事

ICTの関係を中心にお話をいただきまして、おっしゃるとおり、これから導入をしていくが、良い面だけではなく、マイナス面というのはしっかりと押さえながらやっていかなければいけないということが重要だと思っているので、その点を意識していかなければいけないと思う。リテラシーの問題は、おっしゃるとおりである。コロナ禍でも、本当にSNSで情報が飛び交うが、間違った情報とか攻撃的な情報とか、デマとか誹謗中傷とかが多く出

て、我々も悩んでいるが、心を痛めておられる方も多くいらっしゃると思うが、そういった点も含めてこれからの子どもたちは情報ツールを必ず身近にあって使っていくことになるので、情報リテラシーとか、情報の扱い方、発信の仕方、いろいろなところは併せて取り組んでいかなければならないと思う。それから、今後、ICTを活用した教育の充実を図っていく上では、先生方のスキルの向上を図っていかなければならないので、これは教育委員会の方でしっかりと体制を組んで、人材育成というの、進めていただくこととしている。それから、情報職を採用する予定にしておき、募集をし、結構な人数が集まっている。今後、採用をしていこうと思っている。これは特定の部署だけに固めるのではなくて、いろんな分野で情報関係が必要なので、教育も含め、県内の様々な分野で活躍をしてほしいということで、これから計画的に対応していくこととしている。こういった人材も活用しながら教育の面でも充実を図っていききたい。

●和泉委員

先ほどご説明いただいた新たな時代の人づくり推進方針の6項目の取り組みの視点、あるいは重点取組事項と今の時代に求められるICTや幼児教育などについて、非常に配慮されたものとなっているというふうに感じた。この一つ一つのプロジェクトが、是非より良いものになっていただければというふうに思っている。

関連しまして、私の方からは2点述べさせていただきたいと思う。

一つは、教員の多忙化の解消について、学校教員の仕事は、ICT関係とかコロナ対策とか、ますます多忙な状況に置かれているというふうに認識している。そういったことは度々ニュースでも取り上げられ、教育というのは崇高なもので、教育というのはやりがいのある職業だ、というものであるはずなのだが、最近では、ブラックというイメージで捉えられていることは非常に残念に思っている。教員が疲弊することは教育がおろそかになるということにつながりかねない。質の高い授業や、個に応じた指導を行っていくために、教員が一人ひとりの子どもに丁寧に接することができる時間が何よりも大切だと思っている。今回の予算の中でも多忙の解消に繋がるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別な支援を要する児童生徒への支援員、幼児教育アドバイザー、学校業務支援員、部活動指導員、ICT支援員など学校を支えてくださる人材の配置や支援を行う事業に取り組んでいると認識しているが、こういった工夫が、成果を上げて教員の多忙化解消につながることを期待している。

二つ目は、その多忙化とも関係するが、教員の資質能力の向上、教員研修の充実について、多忙化の解消はもちろん必要だが、そのこと自体が目的ではなくて、やはり最終的には、学習指導や生徒指導の充実につながるものが

重要かと思っている。そのためには、最前線で子どもたちと向き合っている、専門職としての教員のスキルアップが重要であり、そのために教員の研修の充実が必要だと思っている。ただし一方、教員研修が増え過ぎてきて、その先に多忙化があるということはあってはいけない。教員研修というのは、教育委員会や、「やまぐち総合教育支援センター」とかで行っているものの他に、市町教育委員会がやっているもの、あるいは校内研修、国の研修、あるいは大学等でやらせていただいている研修、その他教育関係機関で行われている研修などが多くあるが、それらの様々な研修機関の連携や役割分担の整備、学び続ける教員を支える研修の体系化を進めるということが度々法人等でも指摘されているというふうに認識している。それに関しまして、教員研修を一括して管理するシステムとかが本当に充実することが方法としてあるのではないかというふうにちょっと思ったりしている。例えば、県が行う研修だけじゃなくて市町や大学が行う研修、そういったものが一遍に見えるようなシステム、また、その教員がこれまでにどういう研修を行って、管理職の先生も「あなたはこういう研修も受けた方がいいんじゃないか」とか、キャリアステージの中で教員のキャリアステップが目に見える形での養成を、学び続けながら行っていくといったことから意識しながら推進していただくと、より必要なスキルを身に付けた先生方が育成されていくと感じている。

最後に、最近聞くところによると、教員採用試験の倍率が低くて、どうしても教員の資質が問題になってきているのではないかというふうにちょっと懸念している。大学の方も大学の入試も教員養成学部系の倍率があまり高いと言えないような状況があるので、教職が、子どもたちにとっても、やはり学校の先生になりたいなど。昔も今も、教員という職が子どもがなりたい職業の上位にあるということは間違いのないと思うが、さらに子どもたちがなりたいなど思うような学校になってほしいなどというふうに思っている。是非、知事、教育長のリーダーシップのもと、多忙化の解消や資質能力の向上に向けた取組を推進していただき、山口県教育がますます充実したものとなることを願っている。

●村岡知事

今、有効求人倍率が非常に高い、コロナの影響で若干下がってはいるけれども、高い状況がある中で、教員採用試験の倍率が下がってきている状況が顕著になっているが、その一つの要因は、やはり大変な仕事だということが分かってきて、ブラック化と言われましたけれども、教員の多忙化というのが一つの大きな要素になっていると思うので、ここの改善を図っていくということは、教員になりたい人を増やしていくことにつながっていくと思っている。今お話しいただいたように、支援員について、教育とか、部活動とか、ICTの関係について、教育委員会の方でもいろいろと対応を考えておられ

るし、できるだけ多忙化を解消して、本来の教育の取組の充実を図っていき
たいと思う。あと、教員の資質・能力の向上についても、研修について全体
を一括管理できるような仕組みということも、なるほどおっしゃるとおりだ
なと思う。また、教育委員会の方ともしっかりと話をさせていただいて、充
実に向けて取り組んでいきたいと思う。

●浅原教育長

まず、新年度予算の編成に当たりまして、大変厳しい財政状況の中だが、
子どもたちの教育の充実のために、知事にはしっかりと予算を確保していただ
いた。本当にありがとうございます。私からは教育におけるデジタルトラ
ンスフォーメーションの推進と、先ほどからお話が出ているが「乳幼児の育
ちと学び支援センター」の設置についてお話をさせていただきたいと思う。

教育におけるD Xの推進については、本年度中に整備をするI C T環境を
活用し、個別最適な学びと協働的な学び、これを一体的に充実させ、子ども
たちの可能性を広げていくため、広がる教室、深まる学び、「やまぐちスマー
トスクール構想」の推進、こういう形で銘を打って、取組を進めていきたい
と考えている。

この構想の推進にあたって、3つの視点で学校づくりを考えている。一つ
目の視点として、「一人ひとりに合った学びで力を引き出す学校」、これを掲
げており、1人1台タブレット端末を活用して学習履歴を把握した指導の展
開とか、あるいは端末を文房具として活用した主体的な学びの実践、そうい
ったことに取り組んでいきたいと思っている。それから、職業系専門高校に
おいては、最先端のデジタル化に対応するために、金属3Dプリンターとか、
レーザーシミュレータ、そういったものを整備しまして、地域の産業界を牽
引していく人材の育成にも取り組んでまいりたいと思っている。

次に、二つ目として、「海外・地域・他校とつながる学校」、こういうこと
を考えており、オンラインを活用して海外との交流を全県立高校で実施する
体制づくりであるとか、あるいは大学進学のためのハイレベルな知識・技能
を育成する全県の合同の課外授業とか、特別授業の実施など、時間とか場所
とか地域にとらわれない、多様な学びの機会を創出していきたいと考えてい
る。

三つ目として、「安心・安全で一人ひとりを大切にする学校」、これを掲げ
ておりまして、分身ロボットを活用しまして、障害や入院などの事情により、
通学できない、こういった児童生徒にオンライン授業等を実施するというふう
にしている。これまで培ってきた本県の教育実践、それから最先端技術の
ベストミックスにより、様々な場面において子どもたちがI C Tを活用し、
より効果的な学習を行うことができる教育の充実を引き続き取り組んでまい
りたいと考えている。

次に、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」の設置については、先ほどからいろいろお話がありました。新たな時代の人づくり推進方針、これを受けまして、幼児教育・保育の質の向上を図るために、保育所、幼稚園等に対する研修とか助言などの施策を総合的あるいは一元的にするか、ということで先ほどからもお話のとおり、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」を設置することとしている。具体的にはどんなことをするかということですが、専門性の向上を図る研修とか、あるいは幼児教育アドバイザーの訪問による助言、あるいは幼児教育施設や保護者に対しての情報提供、こういったことを一元的に行っていきたいと考えている。乳幼児期における教育、あるいは保育は、やはり生涯における人格形成の基盤・基礎を培う重要なものであると認識をしており、国公立、私立、保育所、幼稚園、そういったものを区別することなく、取り組みを進めるために不可欠となる知事部局や関係団体との緊密な連携により、本県の幼児教育・保育の質の向上に努めてまいりたいと考えている。先ほどから新型コロナの話があったが、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大という、まさに未曾有の事態によって学校の現場にも大きな影響があった。この危機から生まれた変化に対応して、これまで本県の課題であった教育のICT環境の整備を、知事のご判断で一気に進めていただいた。この環境をどう活用するか、そして、どう子どもたちの成長に繋げていけるかというのは、現場の先生方にかかっていると考えている。教育委員会としても一丸となって、学校教育を新しいステージ、新たなステージへと押し上げていかなければならないと思っている。これからも、知事部局と教育委員会が連携をして、本県教育の一層の充実・発展のために、取組を進めてまいりたいと考えているので、引き続きよろしく願います。

●村岡知事

1人1台の端末も思い切って整備をしました。これは、コロナ禍の中で一斉休業がされて、子どもたちのICT教育環境がいかに遅れているかということを感じてしまっていて、今回整備をすることにしたわけですが、デジタルをフルに活用して取組の質を上げていただきたいと思います。「やまぐちスマートスクール構想」もたいへん期待しているので、是非しっかりと進めていただきたいと思います。それから、「山口県乳幼児の育ちと学びの支援センター」についても、知事部局と連携しながら、成果が上がるように、しっかりと役割を果たしていければと思うので、引き続きよろしく願います。

皆さま方から大変貴重なご意見をいただきました。教育委員会、そして知事部局の方でもしっかりと検討して、教育が更に充実して、子どもたちがしっかりと成長していけるように施策を展開していきたいと思う。

最後に、私の方から一言ご挨拶を申し上げます。あらためまして、本日は貴

重なご意見ご提言をいただきまして誠にありがとうございました。私といたしましては、本日皆様方からいただきましたご意見をしっかりと踏まえながら、関連する施策、これをしっかりと推進をして、是非目に見える成果を上げていきたいと思うし、それに向けてしっかりと取り組んでいきたいと考えているので、教育委員会においても引き続き積極的な取組、また効果的な事業実施に努めていただくようよろしくお願いします。

6 閉会（事務局）

（以上）